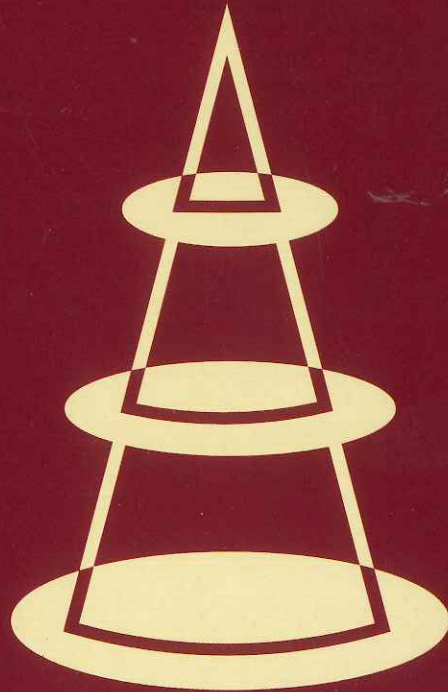


あしたの 街は 私がつくる



2005 第14回 長崎市都市景観賞 作品集

## ごあいさつ



長崎市都市景観賞 表彰実行委員会委員長  
伊藤 一長

2005長崎市都市景観賞並びに都市景観賞奨励賞を受賞された皆様に、心よりお祝いを申し上げます。

昭和62年にスタートいたしました本賞は、今回で第14回目を数え、市民の皆様の間にも広く定着してまいりました。これもひとえに関係者の皆様及び市民の皆様のご支援の賜物と、深くお礼を申し上げます。

さて、本市におきましては、昨年の西彼6町との合併に続き、本年1月4日に琴海町と合併いたしました。合併した各地区に蓄積された特色ある歴史・文化・産業・そして豊かな自然とその個性を大切に引き継ぎ、さらに、その地域の魅力を磨き、「ひとづくり・夢づくり・まちづくり」の基本姿勢を掲げ、新たな一歩を踏み出したところであります。

また、出島復元については、今年の春には、新たにカピタン部屋をはじめ5棟の建物や練塀の復元、南側護岸石垣頭在化の工事が完了します。これによって、19世紀初頭の出島がよみがえり、往時の人々の暮らしや生活空間を体感していただけることとなります。これからのまちづくりは、地域に根ざした個性をいかしながら、住民の皆様の思い描く「住みよい、美しいまち」を実現するために、市民と行政が一体となってまちを育てていかなければならないと考えております。

さらに、4月からは、日本ではじめてのまち歩き博覧会であり「長崎さるく博'06」が開催されます。42ものまち歩きコースをつくりました。コースの中には、これまでに都市景観賞・奨励賞を受賞した建物や通りなども含まれておりますので、そのような視点からもまち歩きを楽しんでいただければと思っております。

今回の受賞作品は、新しい長崎の魅力ある空間の創出と歴史的文化遗产の継承という観点に、動く景観という新たな見方に加え、まさに長崎ならではの作品が選ばれました。そういう意味で、本賞が広く市民の皆様の都市景観に対する意識の向上を図るうえで、重要な役割を果たすものであると期待している次第であります。

最後に、ご応募していただきました多くの市民の皆様、また、ご尽力いただきました選考委員の皆様に、深く感謝申し上げますとともに、今後とも長崎のまちづくりにご理解、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。



長崎商工会議所会頭  
松藤 悟

2005長崎市都市景観賞ならびに都市景観賞奨励賞を受賞されました皆様、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

この賞は、これまで、長崎の豊かな自然環境との調和や地理的特色を生かし、古くから受け継がれてきた伝統ある歴史と風土を大切に、都市空間形成の向上に大きく貢献している建築物や街なみ等に贈られているもので、今回で14回目を迎えることとなりました。

今回の受賞作品も、それぞれのテーマに相応しい、また「地域の顔」として長崎の景観形成に大きく貢献するものが選考されたものと存じます。

さて、昨年は長崎県美術館、長崎歴史文化博物館が相次いでオープンし、さらに長崎港の新しいランドマークとなった女神大橋の開通など、長崎の新たな風景が創出されましたし、特に、今年4月から10月にかけて、日本ではじめてのまち歩き博覧会「長崎さるく博'06」も開催されることなど、観光客の増加が期待されています。

長崎を訪れる方にとって魅力ある街とは、地域住民にとっても美しく住みよい街であり、景観はその重要なひとつの要素です。

景観とは目に写るものだけでなく、街の雰囲気や文化、歴史など、五感で感じる印象も含めた幅広い範囲としてとらえることにより、長崎の街は個性あふれるより美しく快適な街となるものと存じます。

こうした意味からも、長崎市都市景観賞の役割は今後も大変重要となることから、多くの市民の皆様の都市景観への関心を高め、地域住民が主役となった良好な都市景観の形成を促進する事業となることをご期待申し上げます。

最後に、今回の都市景観賞にご協力頂きました皆様並びに、本事業の実施にあたってご尽力頂きました関係各位、選考委員の皆様へお礼を申し上げます、ご挨拶といたします。

選考を終えて



長崎市都市景観賞 選考委員会座長  
宮原 和明

2005長崎市都市景観賞ならびに都市景観賞奨励賞を受賞された皆様に心からお祝い申し上げます。

長崎港ベイエリアの女神大橋、水辺の森公園、旭町の高層建築物などの完成によって斜面都市長崎の大景観、中景観、小景観も大きく変わりつつあります。

一方、時代は成長社会から成熟社会へと移行しなければなりません。スクラップアンドビルドに象徴される建築から、ストックとなる長寿命建築が求められているのです。このような背景は、地球環境問題を視座した持続可能な社会と、環境と共生する建築・都市デザインの追求でもあります。

さて2005長崎市都市景観賞の受賞建築物等が決定され、表彰が行われることになりました。今回は、隔年表彰3回目の年となり、応募件数134件のうち有効件数80件でした。広域市町村合併で市域が拡大したにもかかわらず応募件数は前回より減少しています。また合併した旧周辺自治体からも応募が少なく、さらに本賞の主旨広報、PRが必要になるでしょう。

今回の選考で目につくことは、受賞作品が、これからの建築のあり方や、街並み景観の質を高める方向性とデザイン手法を示唆するものであるということです。

都市景観賞に選ばれた3件のうち、大きな建物部門の「長崎県美術館」は建築としての器のすばらしさのみならず、ベイエリアの建築デザイン手法の示唆であり、かつ水辺の森公園と一体となる回遊性をもつ空間づくりが高く評価されたものです。

小さな建物部門の「ピストロ・ビエ・ド・ポー」は中島川・寺町地区景観形成地区にあって、上質の建築でかつ街並みに合う建物のボリュームとスケール感のすばらしさが評価されました。

歴史のある建物部門の「増田邸」は茅葺の数寄屋門と母屋、生垣と石垣が一体となって、街並み景観と斜面景観に歴史を感じさせる希少なものであり、地道な維持管理をされてきた家主に敬意を表しつつ、残してほしい景観として高く評価されたものです。

都市景観賞奨励賞に選ばれた3件のうち、大きな建物部門「斜行エレベーター」は坂の街長崎ならではの斜面交通システムであり、市民や観光客も良く利用している。斜面の住宅と一体となった景観は独特で斜面都市の表情としてユニークであることが評価されたものです。

テーマ部門の「赤煉瓦塀のあるプロムナード賞、三菱通り」は、長さ400メートルの赤煉瓦塀が近代産業発祥の地として古い歴史をもつ造船の街にふさわしい街並み景観形成に寄与していることが評価されました。

同じく「動く風景賞、超低床電車」は人にやさしく、環境にやさしい路面電車としてヨーロッパの都市で普及しており、レトロなちんちん電車のなかでもモダンでスマートなデザインは、長崎の街並みに新鮮な動く風景をつくりだしていることが評価されました。

歴史のある部門で奨励賞に推薦されながら受賞受諾に至らなかったものもあります。顕彰保存すべき歴史ある建築はまだ多く存在しており、市民の街並み景観形成資源としての合意を構築し、建物維持管理に対する公的補助制度や市民トラスト運動による支援工夫など、積極的な総合景観行政が望まれます。

最後に、これからの街並みや景観の魅力創出に本事業がますます重要性を増し、新しい時代にもふさわしいまちづくりに寄与することを期待しております。

## [選考委員会]

- 座長  
宮原 和明  
長崎総合科学大学教授(建築)
- 委員  
阿野 露團  
洋画家
- 井川 惺亮  
長崎大学教育学部教授(現代美術)
- 井石 尚子  
有限会社ザ・ながさき編集長(マスコミ)
- 太田 格治  
社団法人長崎県建築設計事務所協会長崎支部(建築)
- 岡林 隆敏  
長崎大学工学部教授(土木工学)
- 城尾 忠明  
有限会社マイティースパロウ代表取締役(経済)
- 津田 桂子  
わらべ文庫主宰(文学)
- 津田 礼子  
活水女子大学助教授(環境デザイン)
- 鶴田真理子  
株式会社ながさきプレス編集長(マスコミ)
- 東松 照明  
写真家
- 常盤 育夫  
社団法人長崎青年会議所専務室長
- 林田 米蔵  
長崎県グリーン事業協同組合青年部副会長(造園)
- 伴丈 正志  
長崎総合科学大学助教授(建築)
- 北郷 雅子  
フラワーデザイナー(デザイン)
- 本田 貞勝  
株式会社長崎新聞社取締役論説委員長
- 三好 定和  
社団法人日本建築家協会九州支部長崎会(建築)
- 山崎加代子  
グラフィックデザイナー(デザイン)
- 米村 昭彦  
長崎市美術振興会理事長(美術)



「大きな建物部門」  
長崎県美術館



[選考理由]

今春、長崎港に面する常盤・出島地区に長崎県美術館が「呼吸する美術館」（当館開館記念シンポジウム席上、館長伊東順二氏の言葉）として誕生した。設計に携わった建築家隈研吾氏は「海と敷地内に運河がある」ことにも着目して構想したと言う。（県知事との対談から）この建築の評価は、運河空間にまたがる建築が、海に向かって開放的な建築デザイン性を生み出し、さらに美術館屋上に植栽を数多く、周辺の水辺の森との一体感を図り、また夜景においても照明デザインによって光と水の共演空間が生み出されていることなどである。そしてこのオープンしたばかりの公共空間に多くの県民など人々が集まり始め、新たな港湾の景観を散策し楽しんでいることや、何よりもかつての出島時代の、その再生として文化の営みの夢が早くもそこで具現化されていることである。選考委員会の審議において、これからの景観のありようは、建築としての器の素晴らしさはもちろんのことだが、より大事なのは、その周辺との調和と共にその周辺の景観を保持し維持していくことなどが確認された。そのような今後の景観も含めて、高評価であった。故に、この呼吸する県美術館と共に周辺の風景が、今後ますます調和のとれた長崎港全体の都市景観を形成して行くことを見守りたい。（井川 惺亮）

所在地： 出島町2-1  
用途： 美術館  
階数： 地上2階  
面積： 9,876㎡  
構造： 鉄筋コンクリート造・  
鉄骨鉄筋コンクリート造・  
一部鉄骨造

■所有者■  
長崎県  
長崎市江戸町2-13  
■設計者■  
株式会社日本設計 代表取締役社長 伊丹 勝  
東京都新宿区西新宿6丁目5-1 新宿アイランドタワー-2 9階  
隈 研吾  
東京都港区南青山2丁目24-8 BY-CUBE 2-4F  
■施工者(建築)■  
大成・梅村・松島特定建設工事共同企業体  
大成建設株式会社 代表取締役社長 葉山 莞児  
東京都新宿区西新宿1丁目25-1  
株式会社梅村組 代表取締役社長 梅村 良輔  
佐世保市福石町20-8  
松島建設工業株式会社 代表取締役 濱崎 雅夫  
長崎市万才町1-1 MKKビル6階

■施工者(電気)■  
長崎電業・青電社特定建設工事共同企業体  
長崎電業株式会社 代表取締役 中川 志郎  
長崎市花園町2-21  
株式会社青電社 代表取締役 徳住 秀雄  
長崎市樺島町3-5

■施工者(空調)■  
崎陽・松栄特定建設工事共同企業体  
株式会社崎陽 代表取締役 野口 俊治  
長崎市西山4丁目474-6  
株式会社松栄設備 代表取締役 松元 安雄  
長崎市立山5丁目4-30  
■施工者(衛生)■  
水土・滑石特定建設工事共同企業体  
水土工業株式会社 代表取締役 佐藤 健太郎  
長崎市城山町13-2  
滑石設備株式会社 代表取締役 中間 信美  
長崎市滑石2丁目5-13  
■施工者(外構)■  
栗原・小山特定建設工事共同企業体  
株式会社栗原建設 代表取締役 栗原 卓  
長崎市金屋町9-4  
株式会社小山建設 代表取締役 小山 幸馬  
西海市西海町七釜郷1615-4



【小さな建物部門】  
ビストロ・ピエ・ド・ポー



【選考理由】

この建築は、西にしとき川、南は路地に面した角地に建つ3階建てのレストラン併用住宅である。それは、直方体を組み合わせて1階と3階をセットバックさせた形態をもち、2階の手すりの位置は北隣の住宅のそれと同じ高さとなっている。フランス風レストランの入り口は、角地のコーナーから階段を上ったところにあり、そのアプローチには小さな植栽が施されている。壁面全体は茶系の2色の土壁によって塗り分けられ、正面のしとき川に面した1階は開放的な大きなガラス面が設けられている。このように、鍛冶屋町に建つ「ビストロ・ピエ・ド・ポー」は、周囲の街並みに合うボリュームとスケール感、自然素材による壁面の仕上げ、入り口回りに細やかな配慮がみられ、中島川・寺町地区景観形成地区内にもあり、落ち着いた佇まいを醸し出しており、長崎市都市景観賞に十分に値する建築である。(伴丈 正志)

所在地：鍛冶屋町4-17  
用途：住宅兼店舗  
階数：地上3階  
面積：158.32㎡  
構造：鉄筋コンクリート造

■所有者■  
原田 勝馬  
長崎市鍛冶屋町4-17  
■設計者■  
有限会社アイオー建築設計室 代表取締役 小松 元  
長崎市興善町4-6-401  
■施工者■  
株式会社山口工務店 代表取締役 山口 宏二  
長崎市出島町4-4 5階



第14回  
長崎市都市景観賞  
2005

【歴史のある部門】  
増田邸



【選考理由】

「城の古址の下に見えるあの茅葺き屋根を残して！」そんな市民の想いがこの邸宅を歴史ある部門で都市景観賞まで推し上げた。

片淵の本通りからひとつ入った通りからは、母屋を囲む広大な庭と緑が、耳を澄ましたような静けさと癒しの時を与えてくれる。玉かずらの生垣の手入れが行き届いた石垣と鉤入りに数寄屋門、そしてその奥に露地階段と母屋が見える。今となっては旧市街地に唯一残る茅葺きの本格数寄屋邸宅である。

都市景観的評価と別に邸宅の歴史は古く、特に庭の発祥は長崎開港まで遡り450年前と聞く。中国との貿易商が接客用として建てたもので、母屋の他に茶屋・蔵・数寄屋門・東屋・雪隠・池泉式庭園等、本格的茶室空間が整い、細部まで行き届いた意匠はまさに数寄屋の真骨頂。

都市景観賞の歴史ある部門は、古いものが消えゆく中で、ぜひこの景観は後世に残して欲しいというそんな気持ちが評価されることに大きな価値がある。長崎の歴史と往時を彷彿とさせるこうした接客空間をこれまで地道に維持管理されてきた家主の苦心に敬意を表わすと共に、長崎の街に希少となった茅葺きの景観をいつまでも大切に残して欲しいと願う。（三好 定和）

所在地：片淵2丁目18-18  
用途：専用住宅（茶室ほか）  
階数：平家  
面積：204.94㎡  
構造：木造

■所有者■  
増田水産株式会社 代表取締役 増田 脩二  
長崎市元船町3-20



第14回  
長崎市都市景観賞 奨励賞  
2005

## 『大きな建物部門』 斜行エレベーター



### [選考理由]

市電の終点石橋駅の近く、上田町と相生町の境目にグラバースカイロード（斜行エレベーター）の乗り口がある。グラバースカイロードの全長は113メートル、傾斜角度は31度、斜面地を垂直に登って南大浦小学校の横が降り口となっている。そこから垂直エレベーターに乗り換えればグラバー園第2ゲート前に着く。

長崎は坂の町である。市域の70%が斜面地と聞いている。斜面地の下から上まで住宅などがびっしりと立ち並ぶ。立体的な家並の景観が長崎の特徴である。

しかし、そこで生活する住民、とりわけ高齢者や身体障害者にとって、長い坂道の歩行は困難を極める。そこに登場したのが斜行エレベーターである。

大浦の下町でトグロを巻いていた蛇踊りの蛇が、山の上のグラバー園めがけて一気に駆け登り、背伸びして斜面地に寝そべった姿を想像する。

斜行エレベーターの運行時間は、市電のそれに合わせて、朝6時から夜11時半までとなっている。1日の利用者数は2,034名を数えた日もある。地元住民をはじめ市民の足として多用されている。

斜行エレベーターは、他府県の都市では見られない、長崎ならではのユニークな景観である。（東松 照明）

所在地：上田町・相生町  
区間：起点 上田町～終点 相生町  
延長：113m  
構造：鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造

#### ■所有者■

長崎市

#### ■設計者■

社団法人日本交通計画協会 会長 谷川 和穂  
東京都文京区北郷3丁目23-1 クロセビア本郷

#### ■施工者(建築)■

氏田建設株式会社 代表取締役 氏田 武士  
長崎市千歳町17-6

#### ■施工者(エレベーター)■

三菱電機株式会社長崎支店 支店長 宮上 良雄  
長崎市万才町4-15

#### ■施工者(橋梁)■

株式会社富士ピーエス長崎営業所 所長 豊福 正明  
長崎市宝町5-5 5階

#### ■施工者(外構)■

有限会社今里電気商会 代表取締役 今里 克己  
長崎市出雲2丁目161



第14回  
長崎市都市景観賞 奨励賞  
2005

【テーマ部門】  
【動く風景賞】超低床電車



【選考理由】

まちの路面電車→ちんちん電車→発車する時の鐘の音はチンチン→動く音はガタン、ゴトン→今は鐘の音はしないけど、なぜか通称ちんちん電車→語感がやさしく生活感があるからかも→市民に愛されているのは確か→昔は木造電車も走っていたそう→緑と黄の色はやはり定番？→カラー広告電車はこてこての広告ほど面白い→そのほかにも→夏のビール電車→冬のランタンフェスティバル電飾電車はディスプレイに負けていない→最近お目見えのモダンな超低床電車→グッドデザイン賞を受賞したのは決して外観だけの評価ではないでしょう→床がギリギリ低いから乗り降りなどお年寄りにも好評→値上げ無し運賃はワンコイン（100円）でうれしい→ゆっくり時代を見据えた企業努力が見える→少し前の時代は化石燃料・大量消費→つけはしっかり地球温暖化・酸性雨→世界的に見直されてきたクリーンな路面電車→便利な交通システムは市民の足→こういうのを、スマートでカッコいい、といいます→こんな様々な電車たちが長崎の谷あいを走っているさまは、まさに長崎→日常の、心地いい動く風景でした。（山崎 加代子）

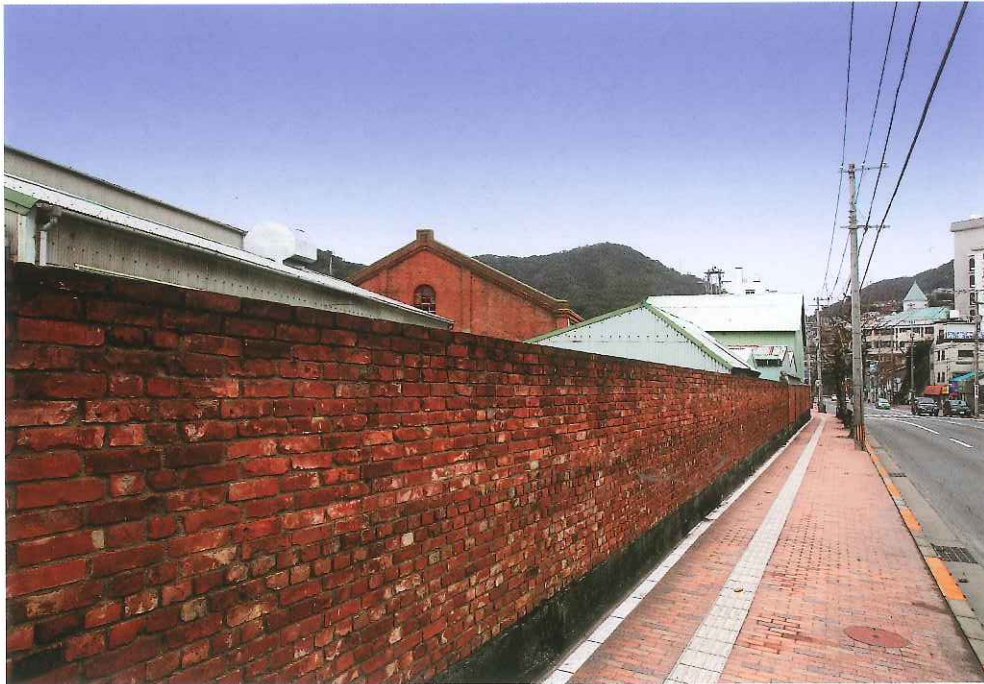
所在地：大橋町4-5（運行中）  
用途：電車

■所有者■  
長崎電気軌道株式会社 代表取締役 佐藤 龍太郎  
長崎市大橋町4-5





【テーマ部門】  
「赤煉瓦塀のあるプロムナード賞」三菱通り



【選考理由】

三菱重工長崎造船所構内と国道202号線に接して古びた赤煉瓦塀が続いている。高さ約2.5メートル、長さ約400メートル。バス停で言えば「水の浦」「神社前」「鮑の浦」の間。これほど長い赤煉瓦塀は県内でも珍しい。煉瓦塀のすぐ近くに1898（明治31）年建築のこれまた煉瓦造り2階建ての造船所史料館があり、赤煉瓦のある風景をつくり出している。塀の国道側は歩道が延び、プラタナスの街路樹とマッチして独特の落ち着いた景観。赤煉瓦塀は平成3年の台風19号で一部が倒壊したが、周囲と違和感がないよう古い赤煉瓦塀で復元した。歩道を歩くと、第9回（1997年）都市景観賞奨励賞のベイスайдシンボル賞を受け、国の有形文化財に登録されているハンマーヘッド型起重機の威容も見える。近代産業発祥の地として古い歴史を誇る造船の街にふさわしい通りである。

（本田 貞勝）

所在地：長崎市鮑の浦町1-1

高さ：約2.5m

長さ：約400m

構造：レンガ造

■所有者■

三菱重工業株式会社社長崎造船所 所長 飯島 史郎

長崎市鮑の浦町1-1



長崎市都市景観賞表彰実行委員会